

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

障害認定を受けない難聴者の合理的配慮の実態と課題の調査に関する研究

研究分担者 東京大学医学部・耳鼻咽喉科・准教授 檜尾明憲

研究要旨

軽度～中等度難聴、または片耳難聴などの「障害に至らない」聴覚障害者に焦点を当て、彼らが職場で直面する課題と必要とされる合理的配慮についてアンケート調査を行い現状を把握・分析した。職場や社会生活における困難が大きいにもかかわらず、合理的配慮の利用率や制度認知が著しく低いことが明らかとなり、今後取り組むべき課題であると考えられた。

A. 研究目的

身体障害者福祉法に基づく障害認定を受けない軽度～中等度難聴、または片耳難聴などの「障害に至らない」聴覚障害者に焦点を当て、彼らが職場で直面する課題と必要とされる合理的配慮について現状を把握・分析すること。

B. 研究方法

楽天インサイトに委託する形で、聴覚障害者及び企業に対してアンケートを行うこととして、その内容及び項目質問方法について班会議で検討を行った。

続いて、アンケート調査を難聴当事者及び企業担当者に依頼し結果を解析した。

（倫理面への配慮）

主任研究者施設において一括倫理審査を行った。

C. 研究結果

当事者700名および企業担当者500名より回答を得ることでできた。

難聴の職場への開示率は、手帳保有者が

86.6% に対して未保有者では18.9%であった。

合理的配慮の利用経験手帳保有者で 68.2% であったのに対し、未保有者では6.9%であった。

未保有者の77.7%は合理的配慮制度自体を「よく知らない」と回答した。

D. 考察

解析の結果、身体障害者手帳を保有しない難聴者では、職場や社会生活における困難が大きいにもかかわらず、合理的配慮の利用率や制度認知が著しく低いことが明らかとなった。

合理的配慮を実効性あるものとするには、聴覚情報を可視化する支援技術の導入促進に加え、当事者が心理的抵抗なく支援を申し出られる職場文化の醸成が重要な課題である。

E. 結論

障害認定を受けない軽度から中等度難聴・片側難聴の課題についてアンケート調査を通じ検討した。難聴の開示・合理的な配慮の利用率は低く、今後取り組んでゆくべき課題と考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

Koizumi M, Kashio A, Ishimaru M, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H, Yamasoba T. Clinical features of cochlear implantation in Japan and factors affecting postoperative infection. *Auris Nasus Larynx*. 2025 Dec;52(6):672-678. doi: 10.1016/j.anl.2025.09.001. Epub 2025 Oct 7. PMID: 41061455.

Hosoya M, Ganaha A, Yoshimura H, Morita Y, Takahashi K, Yamagishi T, Matsumoto N, Fujita T, Miuchi S, Akai R, Shirai K, Kashio A, Doi K, Ohira N, Ito T, Goto T, Takahashi M, Takahashi M, Takahashi M, Komori M, Honkura Y, Hiraumi H, Ayani Y, Okada M, Yamamoto N, Tona Y, Ikezono T, Usami SI, Haginomori SI, Nakagawa T, Oishi N, Tono T, Kakehata S, Kojima H, Kanzaki S. Otologic Surgery Improved Quality of Life of the Patients: A Multicenter Study in Japan. *Otol Neurotol*. 2026 Mar 2. doi: 10.1097/MAO.0000000000004858. Epub ahead of print. PMID: 41770877.

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

2. 実用新案登録
該当なし
該当なし

3. その他
該当なし